

# 1 計画の趣旨

## 1-1 計画の目的

大子町の中心市街地である常陸大子駅周辺は、周囲を山地で囲まれるといった自然条件の下で、周辺の町村を取り込みながら物資の流通の中心地としての機能を果たし、主に商業機能やサービス機能を提供する中心市街地の役割を担ってきました。しかし、進学や職を求めての若者の流出や少子化などによって人口減少が顕著に現れ、中心市街地の活力が低下し、拠点性を失いつつあります。

このような少子高齢化が進展する社会情勢の中で、医療や福祉の充実、教育や文化の振興、生活環境の充実、産業の振興など、地域社会における課題は複雑かつ多様化しています。これらの課題に対し、厳しい財政状況の中でより効果的に地域の維持、再生等を図っていかねばなりません。

そのような中でも、特に中心市街地の衰退は町全体の活力の低下に大きく影響を及ぼすものであり、中心市街地の再生は今後の町政を運営する上で大きな役割を担うことから、まず、中心市街地の賑わいの再生に向けた取り組みが急務となっています。

一方で、近年の大子町では、袋田の滝や温泉、特産品などの地場産業や様々な観光レクリエーション資源を活かし、交流人口の増加を図ることによる活力あるまちづくりに取り組んでおり、県内でも有数の観光地として年間100万人が大子町に訪れています。

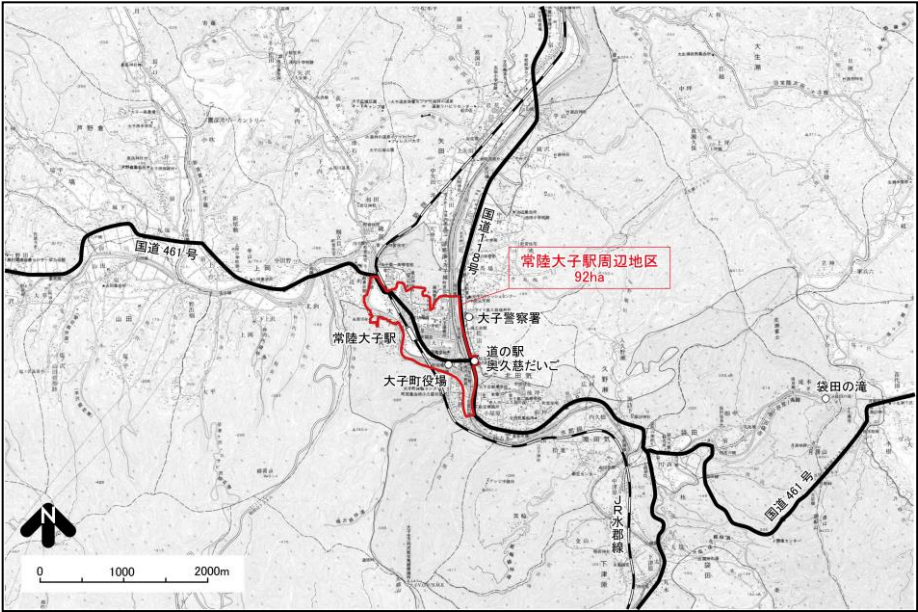
このような状況から、中心市街地においては、地域住民の日常生活の利便性を確保する生活拠点の役割に、まちなかの魅力づくりによる観光機能の要素を加えることで、中心市街地の生活者と来訪者の交流から生まれる、まちなかの賑わいと活性化を促進し、生活・観光・交流を柱としたまちづくりへの転換を目指し、中心市街地の再生を目的とした基本計画を策定するものです。

## 1-2 計画の区域

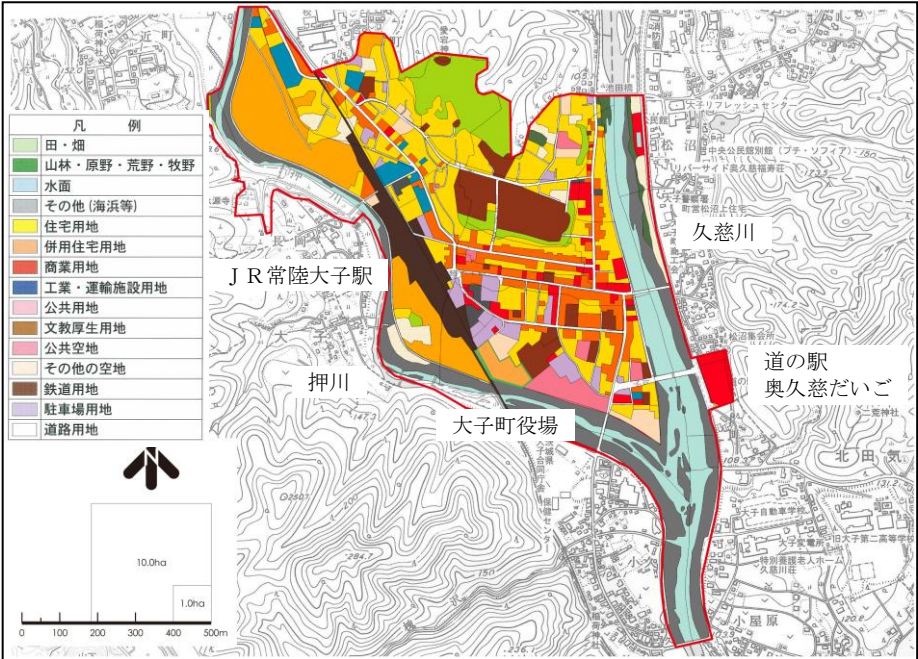
本計画の対象区域は、都市計画区域内の用途地域が定められている区域を基本として、久慈川と押川に挟まれるJR常陸大子駅周辺の既成市街地及びその隣接地と、観光地との結節点となる道の駅奥久慈だいが活性化に有益となる地域資源を含み、一体的に事業を推進することで相乗効果が期待できる区域とします。

さらに、社会資本整備総合交付金（国土交通省）などの事業の活用も念頭に入れながら、効果的に中心市街地の活性化を図る区域として、次の区域を設定します。

(区域位置図)



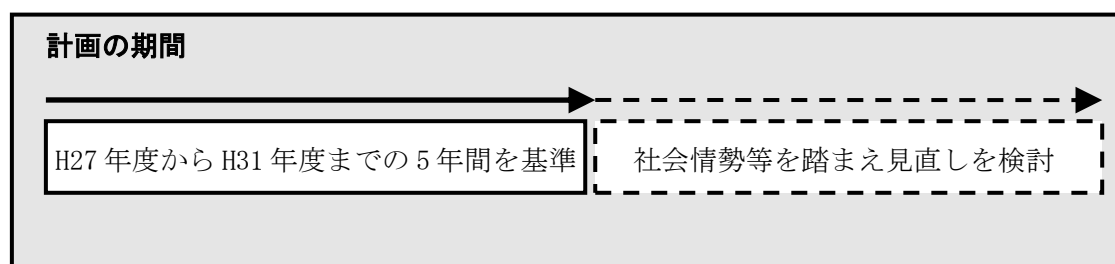
(土地利用現況図)



### 1-3 計画の期間

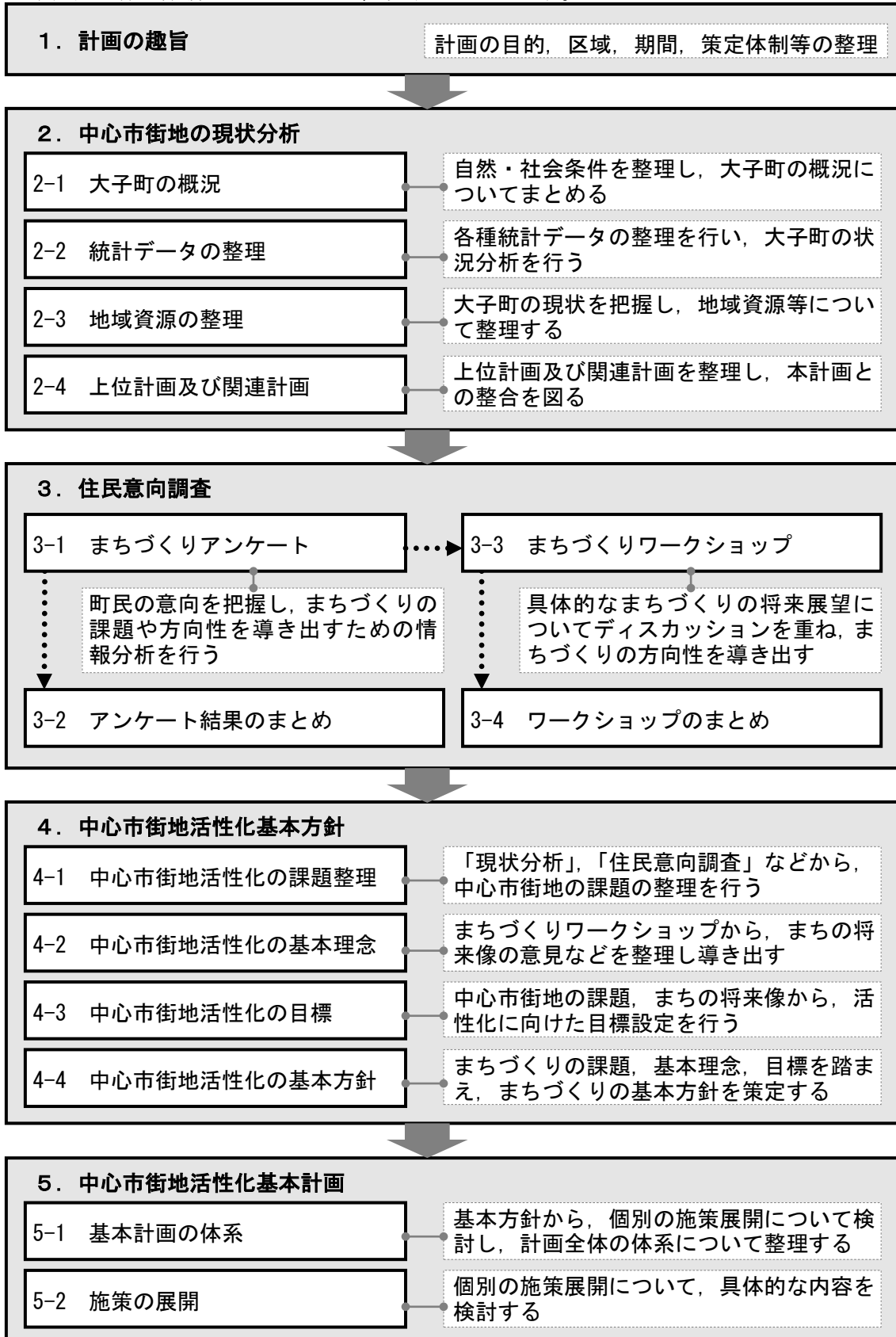
本計画は、中心市街地のまちづくりの方向性や具体的な施策を取りまとめるものであり、計画の期間は、平成 27 年度から平成 31 年度までの 5 年間を基準として策定していますが、まちづくりの達成に向けて、長期的な視点のもと計画の進捗を図っていかねばならないことから、計画の有効期間については定めないものとします。

また、社会情勢や地域実情の変化を踏まえ、施策の見直しや新たな施策の立案等、必要に応じて計画の見直しを図っていくものとします。



## 1-4 計画策定フロー

本計画全体の業務フローについて、以下に整理します。



## 1-5 計画の策定体制

まちづくりにおける、「官」「民」「学」連携を促進するにあたって、住民参加のまちづくりを推進するため、中心市街地の各町内会や商工会、学校関係者など幅広い住民のまちづくり参加を設定するとともに、学術的な視点からまちづくりの方向性について助言を頂くため、茨城大学の協力を得て計画の策定体制を構築するものとなりました。

